令和５年１１月 吉日

小林高校男子バスケットボール部関係各位　殿

小林高校男子バスケットボール部
監　督　　石川　祐二

全国大会出場のための募金活動協力依頼

秋も深まり、日増しに寒くなってまいりましたが、関係各位の皆様方におかれましては、ご健勝のことと存じます。

男子バスケットボール部の指導をさせて頂き１３年目となりました。一昨年・昨年と全国高校総体、ウィンターカップの全国大会に２年連続で出場させていただきました。また、国民体育大会においても、令和元年・昨年・今年と３大会連続で本大会出場（３大会全てベスト１６）させていただき着実に全国上位に入る経験を体感させていただいております。（令和２年・３年は新型コロナ感染症拡大防止の観点により中止）

１月３日に「日本一気が利くチーム」をスローガンに新チームがスタートしました。本年より全ての各種大会が通常開催され、バスケットボールができる嬉しさと各種大会で練習したことが表現できる楽しさを噛み締めながら日々の活動を行ってきました。新チーム最初の大会である九州春季宮崎県予選は２位という結果に終わり、新チームの課題が見えた大会でした。大会後徹底してタイトディフェンスとディフェンスリバウンドを強化し、九州春季大会に挑みました。結界は１回戦で強力な留学生を率いる別府溝部学園高校に惜敗。しかし、得点力は素晴らしい感覚を持っていると今大会を通じて実感しました。試合後の宿舎で「今取り組んでいることに間違いはない。」「もっとハードにもっと全力でもっと素直に取り組もう。」「君達はできる。」とミーティングし大会を終えました。春休みには全関西大会が４年ぶりに開催され、予選リーグで中国地区１位の豊浦高校に勝ち、決勝リーグをかけた試合では、春季九州大会で惜敗した別府溝部学園高校に逆転勝ちを収め、決勝リーグも２勝１敗と全関西大会準優勝と着実に力と自信をつけ大会を終えることができました。その後、関西まで登り大学生や強豪高校と練習試合をさせて頂き春遠征を終了しました。

この勢いのまま、新年度４月に行われる南九州大会県予選に新１年生９名を加え、２６名全員で戦い優勝する予定でしたが、感染症に数名の生徒がかかってしまい２年連続で辞退と悔しい思いをしました。

ゴールデンウィークは今年も九州学院高校に合計６日間お世話になりました。最初の３日間はとても素晴らしいバスケットを展開し強さを感じました。しかし、後半の３日間は次々と重い捻挫や亜脱臼など怪我人が続出し、キャプテンを筆頭に皆自分がなんとかしなければいけないという強い気持ちが空回りし、重い雰囲気のまま合宿を終了しました。怪我人が復帰できない状態が続き、試行錯誤しながらインターハイ予選３連覇に向けて急ピッチでチーム作りを行いました。

新チームとして初めての公式戦。宮崎県高校総体が５月２５日よりスタート。組み合わせは南九州大会県予選を辞退したため第５シードでした。選手達は初めて超満員の体育館で大応援団の声援を受けての試合を経験しました。緊張と３連覇しなければいけないという重圧がかなりあったと思います。決勝リーグ初戦で延岡学園高校と対戦。大差がつき、非常に残念な結果となりました。開始早々に怪我によるアクシデントが連続して起こり、またスタートから常に先手を取られ、留学生にはインサイドを支配され、周りの選手には１対１で破られ、すべて後手を踏みました。最終日、何とか接戦で２勝することができ２位で大会を終了しました。大会終了後そのまま寮にて全員でミーティングを行い、課題に対する改善点、チームの士気をあげるための創意工夫を話し合いました。そして、何度倒れたかは問題ではない！何度立ち上がったか大事だと話し、不屈不撓の精神で練習，トレーニングしようとウィンター予選に向けて「小林高校は絶対に諦めない」と士気を高めました。

夏休みは校内合宿を２週間行いました。メンタル、ファンダメンタルを始め、身体つきが変わってきたのがわかる有意義な合宿でした。一番の収穫は選手達の顔つきが変わってきたことでした。

Ｕ１６エントリーキャンプ（日本代表候補合宿）に本年度小林高校より２名の生徒が選出されました。その選手を中心に国体九州ブロックを通過し、鹿児島特別国体に出場することができました。（小林高校より６名の選手が参加）。鹿児島特別国体では、１回戦北海道と対戦。出だしこそ緊張からくる焦りが前面に出てしまい接戦でしたが、後半は皆で盛り上がり、アグレッシブなディフェンスから得点を量産し勝利。２回戦は宮城県と対戦。勝たなければいけないという力みが裏目に出てしまいイージーショットを連発して外し、さらには相手の気迫あるディフェンスプレッシャーに対しミスを重ねてしまい、終始相手のペースとなってしまい敗退。ベスト１６という結果でしたが良い経験を積むことができました。

ウィンターカップ宮崎県予選では準決勝で宮崎工業高校と対戦。前半相手のシュートを守り切れず失点を重ねました。後半ディフェンスを修正し追い上げ１０点リードまで行きましたが、最終クォーター、安心したのか、勝利を意識したのか、シュートの確率が上がらずそこからくる焦りからミスを連発し、相手の点数につながり惜敗。３年連続ウィンターカップ出場を掴み取ることができませんでした。

結果的には本年度、インターハイとウィンターカップに出場することはできませんでした。来年こそはすべての全国大会出場を果たし、また、上位入賞を成し遂げたいと思います。

これまでの指導者と多くの選手達、保護者等大勢の方々に支えられながら築き上げてきた、この伝統ある小林高校男子バスケットボール部を今後も一生懸命指導し、本気で日本一を掴みに行きます。

皆様には、日頃より生徒のためにご援助いただきましてありがとうございます。毎年のお願いで誠に恐縮致しますが、先輩方が築いてこられた業績を維持するだけではなく、更なる向上を目指して選手、スタッフ一丸となって努力して参ります。何卒ご理解とご協力を頂けますようよろしくお願いいたします。今後ともご指導、ご助言及び叱咤激励の程よろしくお願いいたします。